

天皇陛下御製

五首

平成二十九年

第六十八回全国植樹祭

無花粉のたてやますぎを植ゑにけり患ふ人のなきを願ひて

第七十二回国民体育大会開会式

会場の緑の芝生色映えてえひめ国体の選手入り来る

第三十七回全国豊かな海づくり大会

くろあはびあさりの稚貝ちがひ手渡しぬ漁すなどる人の上思ひつつ

ベトナム国訪問

戦いくさの日々人らはいかに過あごせしか思ひつつ訪とふベトナムの国

タイ国前国王弔問

亡き君のみたまの前に座りつつ睦むつびし日々を思ひ出でけり

天皇陛下御製 五首 平成二十九年

第六十八回全国植樹祭

無花粉のたてやますぎを植ゑにけり患ふ人のなきを願ひて

本年の全国植樹祭は、五月に富山県で開催されました。この御製は、その折に、改良によって作られた花粉をまったく飛ばさない品種のタテヤマスギの苗木をお手植えになったときのことをお詠みになっています。

第七十二回国民体育大会開会式

会場の緑の芝生色映えてえひめ国体の選手入り来る

天皇后両陛下は、本年九月、国民体育大会御臨場のため、愛媛県においてになりました。色鮮やかな芝生の愛媛県総合運動公園陸上競技場に選手団が入場してくるときの様子をお詠みになったものです。

第三十七回全国豊かな海づくり大会

くろあはびあさりの稚貝<sup>ちがひ</sup>手渡しぬ漁<sup>すなど</sup>る人の上思ひつつ

本年十月、天皇后両陛下は、全国豊かな海づくり大会御臨席のため、福岡県を訪問されました。式典行事において、関係する漁に携わる漁業者のこころをお思いになりながら、沖で放流されるクロアワビとアサリの稚貝を漁業者にお手渡しになったことを詠まれた御製です。

## ベトナム国訪問

戦の日々人らはいかに過ごせしか思ひつつ訪ふベトナムの国

天皇后両陛下は、本年二月から三月にかけて、ベトナム国を初めてご訪問になりました。この御製は、第二次大戦後も様々な戦争や紛争を経験し、その後に発展を遂げてきたベトナム国の来し方に思いを馳せられてお詠みになっています。

## タイ国前国王弔問

亡き君のみたまの前に座りつつ睦びし日々を思ひ出でけり

本年三月、ベトナム国ご訪問の途次、天皇后両陛下は、プミポン前国王のご弔問のため、タイ国にお立ち寄りになりました。前国王及びシリキット王妃陛下が国賓として我が国をご訪問になった翌年の昭和三九年に昭和天皇の御名代としてタイ国ご訪問以来、半世紀を超える親しいご交流を思い出されながら、王宮内に安置された前国王の棺の前でお別れの時をお過ごしになったときのことをお詠みになっています。

皇后陛下御歌

三首

平成二十九年

旅

「父の国」と日本を語る人ら住む遠きベトナムを訪ひ来たり

第二次大戦後、ベトナムに残留、彼地に家族を得、後、  
単身で帰国を余儀なくされし日本兵あり

名

野蒜とふ愛しき地名あるを知る被災地なるを深く覚えむ

南の島々

遠く来て島人と共に過ごしたる三日ありしを君と愛しむ

皇后陛下御歌

三首

平成二十九年

旅

「父の国」と日本を語る人ら住む遠きベトナムを訪ひ来たり

第二次大戦後、ベトナムに残留、彼地に家族を得、後、  
単身で帰国を余儀なくされし日本兵あり

ベトナムには、第二次大戦後ベトナムに残り、フランスからの独立戦争に  
参画した日本兵が、現地で家庭を持ちながらその後帰国を余儀なくされたこ  
とにより、同国内にとり残されたベトナム人家族が何組もあります。この御  
歌は、今年春の同国ご訪問時、陛下と共にこうした家族の人々とお会いにな  
ったときのことをお詠みになったものです。

名

野蒜とふ愛しき地名あるを知る被災地なるを深く覚えむ

東日本大震災発生以来、皇后陛下は天皇陛下と共に被災地の状況に日々お  
心を寄せておられました。発生後間もなく、数ある被災地の中に、春、御  
所のお庭でよく摘んでいらした野蒜と同じこの地名を見出され、お心に留め  
ていらっしやいました。この御歌は、その頃からのお気持ちをこのような歌  
の形でお書きとめになつていたものです。

南の島々

遠く来て島人と共に過ごしたる三日ありしを君と愛しむ

本年十一月、両陛下は、鹿児島県をご訪問になり、新岳噴火で全島避難を  
余儀なくされた口永良部島住民と屋久島でご懇談になるとともに、初めて沖  
永良部島と与論島を訪問されました。それぞれの島において島民の人々と触  
れ合われた三日間を、両陛下が大切に思い出とされているお気持ちをお詠み  
になつています。